日本福祉大学 2019 年度地域連携型研究助成　研究報告

研究代表者　所属・職：国際福祉開発学部・助教

氏　　名：カースティ　祖父江

研究課題名：知多半島に在住する外国人住民の現状と地域共生に向けての課題の可視化

研究の目的

本研究は、次の取り組みを実施することを通して知多半島の多文化共生への理解を促進することが目的であった。

1)知多半島の市町の自治体と協力し、調査などによって定住外国人とのコミュニケーションにおける課題を特定し、やさしい日本語の状況提供などによって改善を図る。

2)知多半島の市町の商工会議所との協力による外国人労働者の雇用先になっている企業を調査し、日本語教育を含むそれらの外国人労働者の扱いやそれに対する課題を明確にする。

3)上記の２つの取り組みによって得た情報を基に、現在知多半島の定住外国人に日本語教育を提供されている団体（日本福祉大学日本語教育センターや知多半島の国際交流協会などのボランティア教室を含む）の連携を強化し、課題の解決につながるような取り組みを提案する。

4)新しい媒体（動画）を通して、知多半島で生活や仕事をしている外国人の現状を伝える成果物を作成し、加速する多文化社会における相互理解や共生を促進する。

研究成果内容

１）プロジェクト目標の達成状況・成果内容

上記の目標に対して、次の成果を上げることができた。

1) 知多市の市民研究員と教育関係者と打ち合わせを複数回し、2018 年度に作成した「東海市・学校がわかる本」という、外国人住民のための就学手引きの知多市版を作る作業を開始した。1 月以降、コロナウィルスのため、学校関係者などとの打ち合わせが不可能となったため、編集作業はまだ途中である。

2) 知多半島(東海市と半田市)で外国人労働者を雇用している企業における日本語協力支援活動について調査をし、その現状と課題を明確にするための調査を行った。調査の結果を含めて、千頭聡教授と共著で「知多半島歴史と現在 23」に「外国人雇用の実態と地域共生に向けての日本語教育の課題」としてまとめて発表することができた。外国人を雇用している企業が調査されることに対して難色を示すことが若干多かったことで、現状を明らかにしたとはまだ言えず、今後の課題の一つはさらに効果的な調査方法を見つけることであろうと考えられる。

3) 知多半島の定住外国人に日本語教育を提供されている団体と複数回打ち合わせをし、日本語学習者の全般的な生活支援を視野に入れた学びができるために 2020 年 3 月に「日本語教育がもたらす福祉」をテーマに日本福祉大学日本語教育センター主催の「日本語教育サミット」を企画したが、コロナウィルスのために開催延期となり、現在開催時期が未定である。

4) 愛知県で働いている外国人や日本福祉大学の留学生を対象に、国際福祉開発学部 1-2 年のゼミ生との協力で「みんな愛知県民」という動画を制作した。動画制作のプロセスは NHK 教育テレビの取材の対象となり、2 月 15 日の「TV シンポジウム」において紹介された。できた動画は、現在外国人の入国制限などがかかっているため、まだ公に配信していないが、n-fukushi の Google ドライブからご覧いただくことが可能です。

https://drive.google.com/file/d/15JZhovwyOafoyE9Ry-OuLcXr9t3Cfk6r/view?usp=sharing

２）研究期間終了後の今後の展望

特に上記の(4)の動画作成は、依然としてネガティブに捉えられる「外国人労働者の増加」をポジティブに発信する可能性があるものとして、引き続き取り組みたいと考えている。また、知多半島で働いている外国人のサポートに繋がる取り組みを、地域の団体とともにだけではなく、ゼミ生や日本語教師養成プログラムを履修している学生と一緒にしていく予定である。コロナウイルス終息後、活動を再開したいと考えている。